

## 令和5年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

### 1 開催日時等

令和5年6月23日（金曜日）午後2時から3時50分まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター本館6階会議室

### 2 議事及び報告事項

#### (1) 議事：事例の検討について

令和5年5月31日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した12事例について検討を行った（うち1事例は、令和4年度第2回から再掲）。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。

4事例（肝機能検査値異常、胃部不快・だるさ、皮膚症状、嘔気・嘔吐）に関して、都医師会、都薬剤師会へ情報提供し、更なる情報収集について協力を依頼することとなった。

2事例（下痢／嘔気・嘔吐、胃部不快／嘔気・嘔吐）は、摂取状況・転帰等が不明であるために因果関係が不明であることから、蓄積していくという結論になった。

6事例（尿酸値上昇、血圧上昇、皮膚症状（2）、肝機能検査異常／腹部膨満感、腹痛／胃部不快）は非重篤な事例であり、患者の体質等製品以外の影響も考えられることから、蓄積していくという結論になった。

基礎疾患のある人（医薬品を服用している人）やアレルギー体質の人が健康食品を摂取する際は、利用前に医師・薬剤師等に相談することが大切であるとの意見があがった。

#### (2) 事務局からの報告事項

##### ア 東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼の実施について

（令和4年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

令和4年度第2回当専門委員会での検討結果、情報提供することとした11事例（皮膚症状4、消化器症状4、胸が張る2、鼻血1）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼した。

##### イ 収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から令和5年5月31日までに収集した事例の集計結果は、下表（抄）のとおりである。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抄）

ア 情報共有シート提供元の内訳

提供元	報告数（件）	患者数（人）
医師会	266	185
薬剤師会	230	216
東京都消費生活総合消費者センター*	3	3
合計	499	404

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月 17 日から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バストアップ	筋肉増強	その他・不明	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	20		1	1		3					2		1	4		4	3		18	57
30代	18	1	2		1	5					5		4	1		7			19	63
40代	18	2	4	1	1	3	2	1	1		1		6	3	1	5			20	69
50代	10	4	1		1	26	13	1	1	1	2	2	8	2	2	4		1	34	113
60代	9	5	1	1	3	13	20	4			1	2	15	7	1	1		2	35	120
70代以上	10	8	2		5	25	46	5	6	4	1		14	8	1	3		2	66	206
不明・記載なし	2	1			3	1			1				3		1	1			42	55
合計	89	21	11	3	15	78	81	11	9	5	12	4	51	25	6	25	3	5	236	690

- ・ダイエット・美容は 20～40 代、栄養補給、腰痛・関節痛は 50 代以上、健康維持・健康増進は 60 代以上が多い。
- ・年齢別では、50 代以上の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	295	73.0%
男性	104	25.7%
記載なし	5	1.2%

・女性 は 男性 の 約 3 倍 で あ っ た。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数(人)	構成比
あり	254	62.9%
なし	93	23.0%
不明・記載なし	57	14.1%
合計	404	100.0%

・医師の診察がない（又は不明）患者が約 4 割であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数(人)	構成比
有り	243	60.1%
無し	114	28.2%
不明・記載なし	47	11.6%
合計	404	100.0%

・基礎疾患のある人の事例は約 6 割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数(人)	構成比
有り	188	77.4%
無し	14	5.8%
記載なし	41	16.9%
合計	243	100.0%

(母数：基礎疾患のある 243 人)

・基礎疾患のある人の約 8 割が、治療薬と健康食品とを併用していた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	130
胃痛・胃部不快感・吐気	81
肝機能障害、肝機能検査値異常	47
血液検査異常(肝機能以外)	44
下痢・軟便	43
便秘	13
倦怠感	7
出血、出血傾向	7
めまい・ふらつき	6
頭痛	6
下腹部痛、子宮出血	2
その他	59
合計	445

（母数：404人）

・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」であった。

・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものである。

東京都食品安全情報評価委員会  
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿  
(五十音順・敬称略)

令和5年6月現在

No.	氏名	所属
1	梅垣 敬三 (座長)	静岡県立大学 客員教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	町田 奈緒子	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
4	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
5	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科(呼吸器)教授
6	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室 室長